

平成27年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

平成27年12月（前回調査：平成26年11月）

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校33校、中学校31校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校	3, 104人	(抽出率5.9%)	}	合計	7, 876人	(抽出率5.6%)
中学校	2, 912人	(抽出率5.6%)				
高等学校	1, 860人	(抽出率5.1%)				

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホ等とは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム机等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、ライン、ツイッター、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

平成28年4月

岡山県教育庁義務教育課
生徒指導推進室

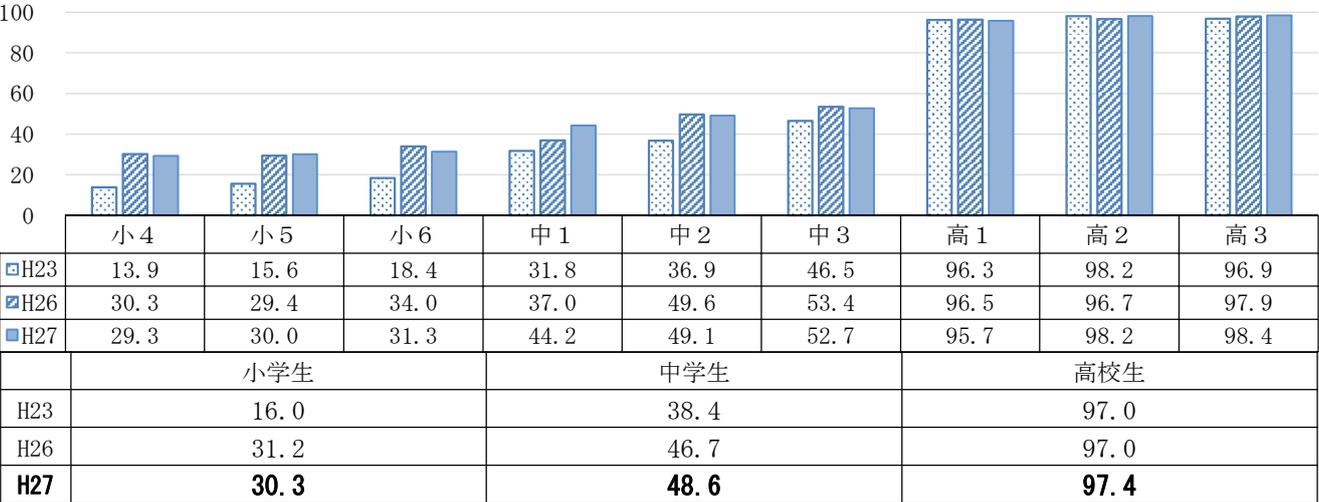
(1) スマホ等の利用状況について

〈 概要 〉

- ① 自分のスマホ等を持っている割合は、小学生30.3%、中学生48.6%、高校生97.4%であり、前年度と比べて所持率は、ほぼ横ばいである。
- ② スマホ・ゲーム等を利用する児童生徒のうち、平日1日に平均3時間以上利用している割合は、小学生13.9%、中学生23.9%、高校生33.8%であり、前年度と比べて、すべての校種で減少している。
- ③ 自分のスマホ等を利用する時間帯は、すべての校種で「自宅で一人にいるとき」が最も多く、この傾向は前年度と同様である。
- ④ 普段、インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスを利用している割合は、小学生57.2%、中学生78.0%、高校生95.3%である。また、そのうち、小学生の78.5%がゲームを利用し、中学生の74.7%、高校生の95.2%がLINEを利用している。
- ⑤ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために「日常生活で減った時間がある」と答えた割合は、小学生23.7%、中学生39.1%、高校生43.5%であり、前年度と比べて増加している。また、自分のスマホ等を持っている児童生徒の方がその割合は高く、小学生28.5%、中学生43.3%、高校生43.6%である。
- ⑥ 「日常生活で減った時間がある」と答えた割合は、特に、1日3時間以上利用する児童生徒において大きく増加している。

① 自分のスマホ等を持っているか

◆ 「自分専用のスマホ・携帯を持っている」と回答した割合(%)



② 平日1日当たり、どれくらいスマホ等を利用しているか

◆ 平日1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>



※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

◆ 「1日に3時間以上、スマホ・携帯を利用している」と回答した割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

	H23	H26	H27	対前年増減	n (H27対象数:人)
小学生	6.4	9.2	8.5	-0.7	922
中学生	21.3	25.5	23.4	-2.1	1,396
高校生	23.7	27.9	24.9	-3.0	1,781

<参考>全国学力学習状況調査結果
平成27年4月実施

平日1日当たり3時間以上、携帯・スマホを利用する児童生徒の割合(%)
(ただし、携帯・スマホによるゲームの時間を除く)

	全国	岡山県
小学6年生	5.7	5.6
中学3年生	18.2	19.2

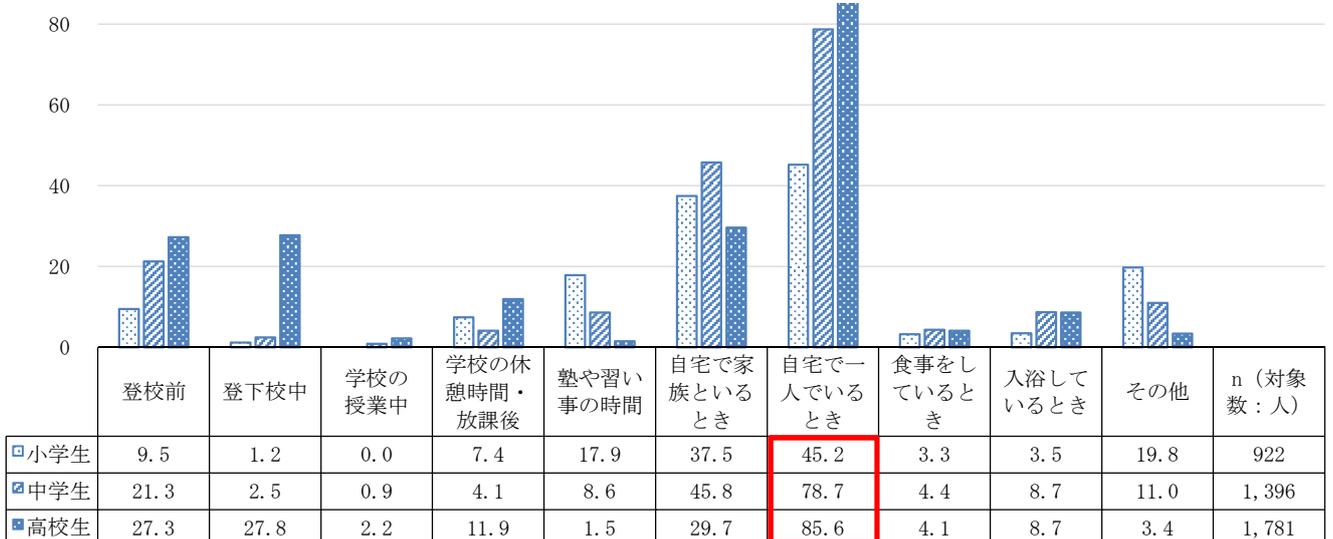
◆ スマホ・携帯、パソコン、タブレット、携帯音楽プレイヤー、ゲーム機等、すべての情報機器端末の利用時間の合計を「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	H23	H26	H27	対前年増減	n (H27対象数:人)
小学生	—	15.8	13.9	-1.9	3,104
中学生	—	25.0	23.9	-1.1	2,912
高校生	—	39.0	33.8	-5.2	1,860

③ スマホ等をよく利用するのはどんな時か 【複数回答】

◆ スマホ等の利用時間帯別割合(%) <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



④ ネットやコミュニケーションサービスを利用しているか

◆「ネットやコミュニケーションサービスを利用している」と回答した割合(%)

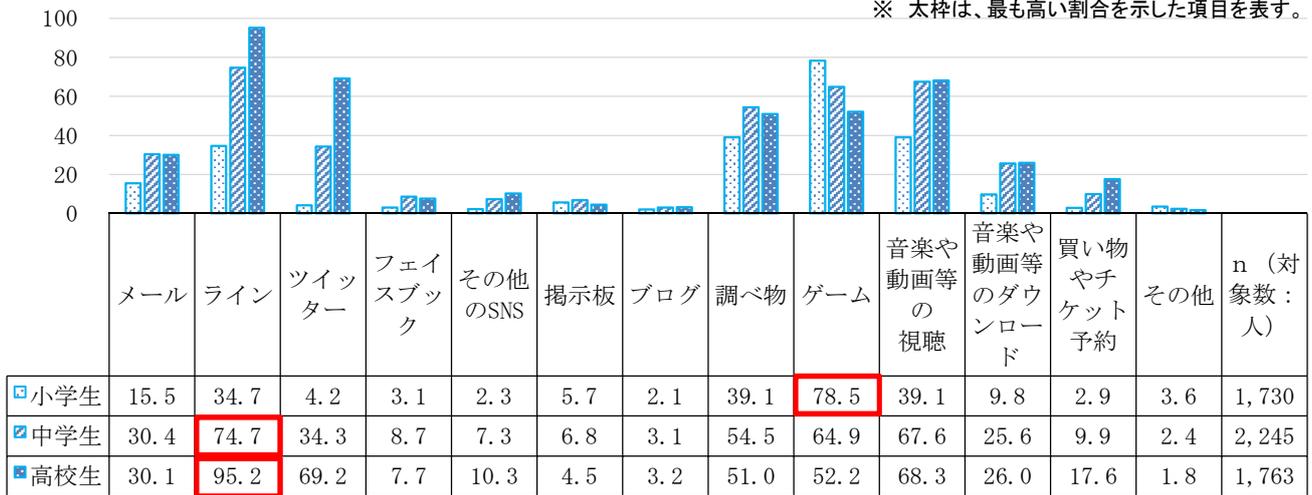
<本調査の回答者全員が対象>

	H26	H27	対前年増減	n (H27対象数:人)
小学生	58.0	57.2	-0.8	3,073
中学生	77.2	78.0	+0.8	2,894
高校生	95.8	95.3	-0.5	1,852

◆ サービス形態別の利用率(%)【複数回答】

<ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



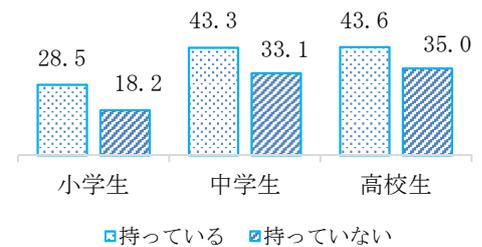
⑤ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために日常生活で減った時間があるか

◆ 情報機器端末などの利用のために、「減った時間がある」と回答した割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	H26	H27	対前年増減	n (H27対象数:人)
小学生	22.5	23.7	+1.2	3,028
中学生	33.9	39.1	+5.2	2,849
高校生	40.1	43.5	+3.4	1,834

自分のスマホ等の所持の有無による「減った時間がある」と回答した割合(%)



<参考> 利用により減った内容(%) 【複数回答】

小学生

①テレビを見る時間(39.7) ②睡眠時間(35.0) ③学習時間(32.9)

中学生

①学習時間(59.2) ②睡眠時間(56.0) ③テレビを見る時間(40.7)

高校生

①睡眠時間(69.0) ②学習時間(61.9) ③テレビを見る時間(34.5)

⑥ 自分のスマホ等の利用時間別にみたスマホなどの利用で日常生活で減った時間があるか

◆ 情報機器端末などの利用のために、「減った時間がある」と回答した利用時間別の割合(%)

<自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

	小学生			中学生			高校生		
	H26	H27	対前年増減	H26	H27	対前年増減	H26	H27	対前年増減
0～1時間	21.9	22.7	+0.8	31.7	33.8	+2.1	32.2	32.4	+0.2
1～3時間	34.2	35.7	+1.5	40.0	42.6	+2.6	42.5	44.9	+2.4
3時間以上	37.0	47.4	+10.4	41.7	58.6	+16.9	43.3	51.3	+8.0

(2) スマホやネットなどを介したいじめやトラブルについて

〈概要〉

- ① スマホ、ネット、コミュニケーションサービスを利用して、悪口を書かれたり、トラブルにあうなど「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小学生7.6%、中学生19.3%、高校生17.8%で、前年度と比べて、中学生で割合が増加している。また、その内容について、小・高校生は「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された」が多く、中学生では「チェーンメールを送られた」が多い。
- ② ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや不安を感じることもある」と答えた割合は、小学生8.3%、中学生17.8%、高校生17.6%であり、その内容のうち、「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない」では、前年度と比べて、その割合が中・高校生では減少しているのに対し、小学生は増加している。中・高校生では「自分の書き込みがあれでよかったかなどと後で悩む」が多い。
- ③ 「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、前年度と比べて、小・高校生では増加しており、全体的に意識が高まっているが、フィルタリングの設定について、保護者と子どもとの意識には差が見られる。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

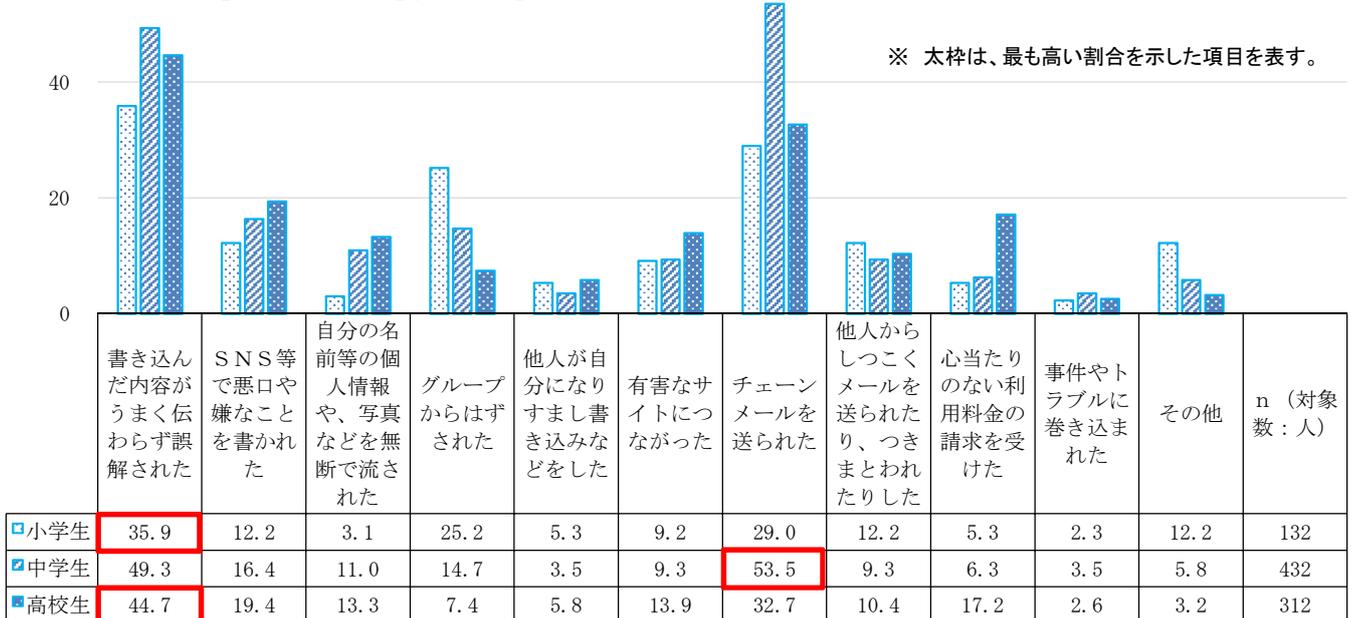
◆「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	H26	H27	対前年増減	n (H27対象数：人)
小学生	8.0	7.6	- 0.4	1,714
中学生	15.9	19.3	+ 3.4	2,225
高校生	18.3	17.8	- 0.5	1,743

◆「経験した嫌なこと」の割合(%) 【複数回答】

＜ネット利用によって嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答＞



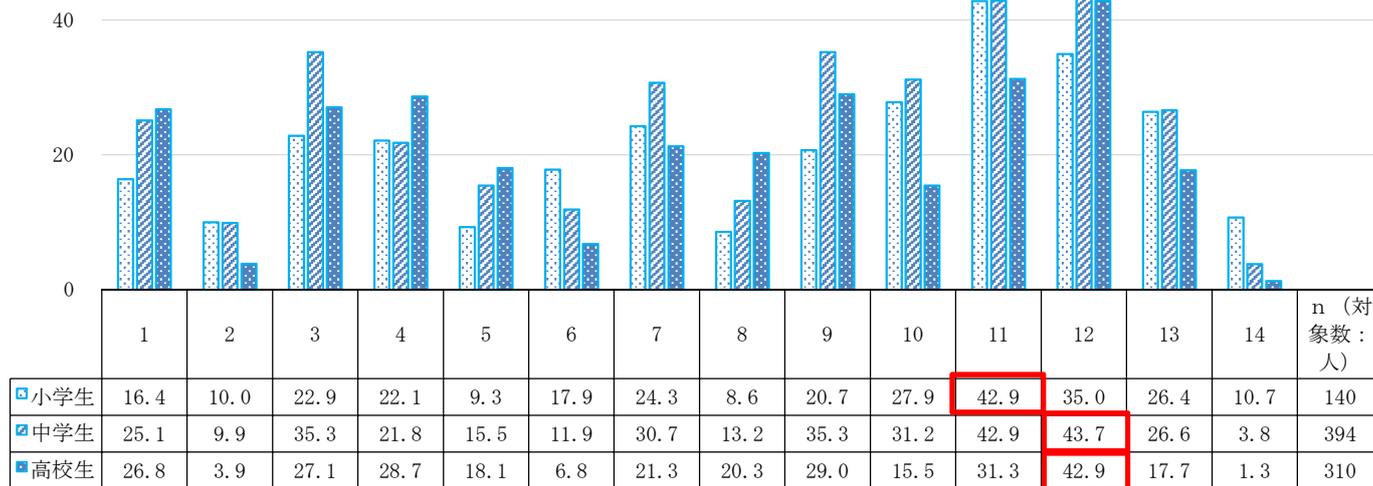
② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

◆「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」と回答した割合(%)
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	H26	H27	対前年増減	n (H27対象数：人)
小学生	9.4	8.3	- 1.1	1,731
中学生	17.1	17.8	+ 0.7	2,241
高校生	21.7	17.6	- 4.1	1,761

◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%)【複数回答】
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



- 1 利用しているコミュニケーションサービス内の人間関係
- 2 ひんばんにメッセージを投稿しなければいけないような気がする
- 3 友だちのメッセージをチェックすること
- 4 自分の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む
- 5 他人の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいか悩む
- 6 悪意のあるコメントや荒らしがくる
- 7 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる
- 8 知りたくもないのに人の行動がわかってしまう
- 9 メッセージを読んだことがわかる機能(既読チェックなど)がある
- 10 メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけない
- 11 友だちとのやりとりをなかなか終わらせられない
- 12 自分の書き込みがあれでよかったかなどと後で悩む
- 13 自分の書いたメッセージに反応がない
- 14 その他

◆「11 友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと」の回答割合の推移(%)

	H26	H27	対前年増減	n (H27対象数：人)
小学生	32.9	42.9	+10.0	140
中学生	45.5	42.9	- 2.6	394
高校生	33.1	31.3	- 1.8	310

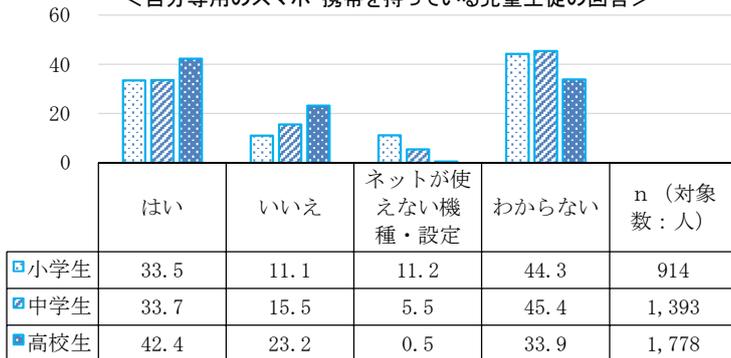
③ フィルタリングを設定しているか

◆ フィルタリングの設定について「はい」と回答した児童生徒の割合(%)
 <自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>

	H23	H26	H27	対前年増減	n (H27対象数：人)
小学生	30.1	30.5	33.5	+3.0	914
中学生	44.2	34.5	33.7	-0.8	1,393
高校生	37.7	40.8	42.4	+1.6	1,778

◆ フィルタリングの設定に関する児童生徒の回答割合(%)

<自分専用のスマホ・携帯を持っている児童生徒の回答>



<参考>保護者の意識は？

本県公表の「青少年の意識等に関する調査(平成27年6~7月実施)」の結果によると、フィルタリングの利用に関する保護者の回答結果は、下の表のようになっており、本調査における児童生徒の回答状況とは差異が見られる。

	利用している	利用していない	使えない機種・設定	わからない
小中高全体	55.6	33.2	2.6	6.5

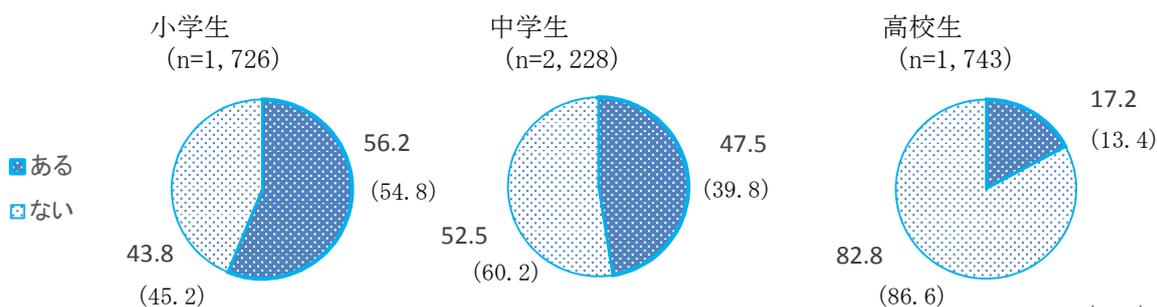
(3) スマホなどの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性などに関する学習について

<概要>

- ① スマホなどの利用に関する家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小学生56.2%、中学生47.5%、高校生17.2%であり、前年度と比べて、小・中・高すべての校種で増加している。
- ② 「家庭のルールがある」と答えた児童生徒のうち、そのルールについては、すべての校種で「使う時間」、「知らない人からのメール等に返信しない」が多い。
- ③ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用について、「●時以降は使用しない」というルールを決めている割合は、小学生57.6%、中学生33.6%、高校生8.2%で、前年度と比べて、微増である。
- ④ スマホやネットなどの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合は、小学生81.5%、中学生89.7%、高校生92.9%であり、前年度と比べて、すべての校種で増加し、特に小学校では、「学校で学んだ」とする割合が増加した。

① スマホなどの利用に関して家庭のルールが設定されているか

◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%) <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>



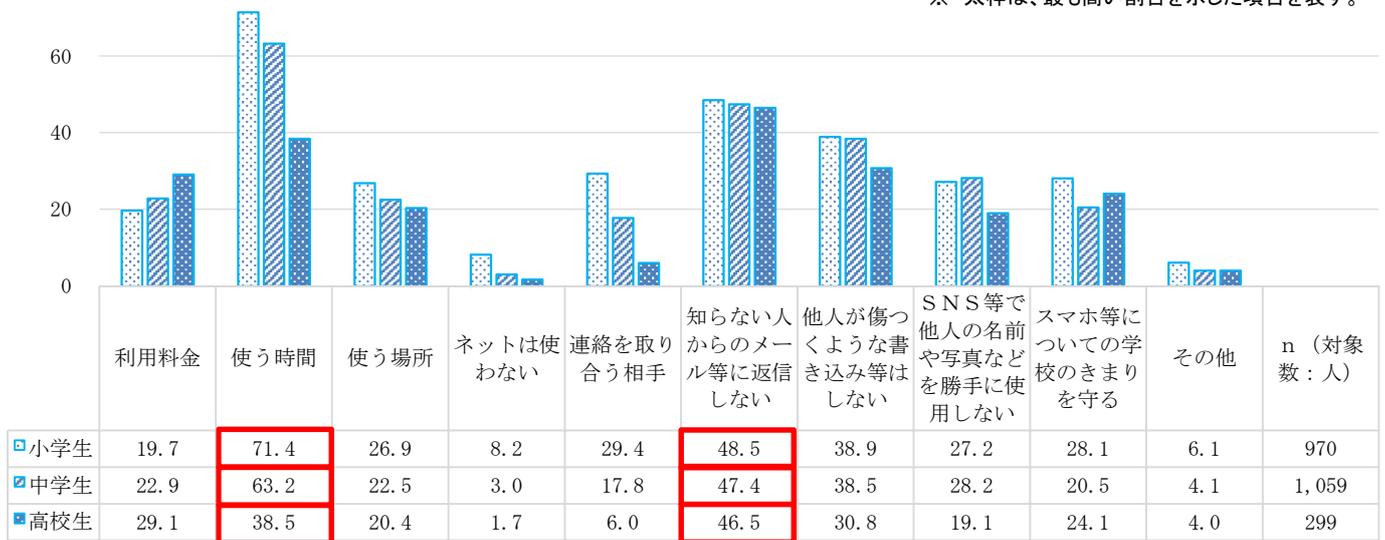
()内はH26結果

② どのようなルールを決めているか【複数回答】

◆ 家庭のルールに関する回答の割合(%)

<スマホなどの利用に関して家庭のルールが設定されている児童生徒が回答>

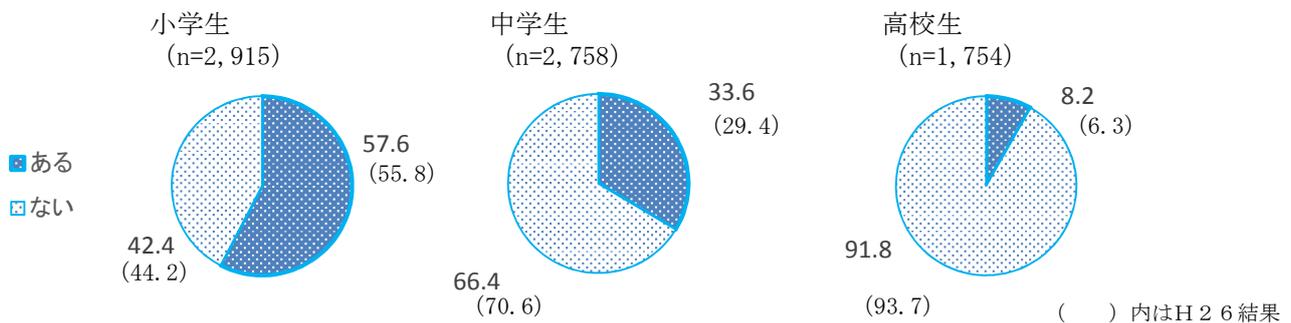
※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



③ 夜間の利用制限に関するルールを決めているか

◆ 「●時以降は使用しない」というルールの有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>



④ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合(%)

◆ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	ある				ない				不明				n (H27対象数：人)
	H23	H26	H27	対前年度増減	H23	H26	H27	対前年度増減	H23	H26	H27	対前年度増減	
小学生	63.7	79.1	81.5	+2.4	36.3	13.6	11.9	-1.7	—	7.3	6.6	-0.7	2,873
中学生	83.7	88.1	89.7	+1.6	16.3	5.7	4.6	-1.1	—	6.2	5.7	-0.5	2,815
高校生	92.3	91.2	92.9	+1.7	7.7	4.4	3.2	-1.2	—	4.4	4.0	-0.4	1,834

◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【複数回答】

<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>

	学校で				保護者に				販売店で				n (H27対象数：人)
	H23	H26	H27	対前年度増減	H23	H26	H27	対前年度増減	H23	H26	H27	対前年度増減	
小学生	37.3	61.3	74.7	+13.4	32.0	60.1	56.8	-3.3	3.8	4.5	4.2	-0.3	2,328
中学生	73.8	91.6	93.2	+1.6	21.9	34.8	39.7	+4.9	4.7	5.2	6.3	+1.1	2,517
高校生	88.4	95.3	97.5	+2.2	10.5	15.6	21.2	+5.6	6.2	8.5	8.7	+0.2	1,697

(4) 成果と課題

<これまでの取組>

県のスマホ等の夜間使用制限の提唱に伴い、学校やPTA、市町村教委が積極的に児童生徒の主体的な活動や保護者啓発等の促進に取り組んでおり、また、県においてもスマホ・ネット問題総合対策として、「OKAYAMAスマホサミット2016」の実施、指導の中核となる教職員の養成、スマホ等の正しい利用に関する学習リーフレットの配付や、「子ども安全安心ネットサポーター」の養成等による保護者啓発など、スマホ・ネット問題に対して総合的に取り組んできている。

<現状と課題>

- ◆ 平日3時間以上、スマホやゲーム等を利用する児童生徒の割合が、前年度と比較して全ての校種で減少しているものの、依然、中学生で2割、高校生で3割を超えている。
- ◆ ネットやコミュニケーションサービスを利用している中・高校生のうち、2割弱が嫌な経験をしたり、悩みや不安を感じたりしたことがあるという現状がある。
- ◆ 小・高校生で、「フィルタリングを設定している」と回答した割合が前年度と比較して増加しているものの、すべての校種でさらに設定率を向上させていく必要がある。
- ◆ 「家庭のルールがある」と回答した割合は、前年度と比較して全ての校種で増加しているが、ルールづくりがさらに進むよう、児童生徒及び保護者の意識を高めていく必要がある。
- ◆ 「スマホやネットの危険性について教えてもらったり、学んだことがある」と回答した割合が前年度と比較して増加し、特に、小学生では「学校で学んだ」とする割合が大きく増加した。

(5) 今後の対策

<重点目標>

○スマホ等の使用時間制限に関する取組の促進

<スマホ、ゲーム機等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合>

H27実績 小(13.9%)、中(23.9%)、高(33.8%)⇒ H29目標値 小(5%)、中(10%)、高(20%)

○家庭でのルールづくりの促進

<家庭のルールがあると答えた児童生徒の割合>

H27実績 小(56.2%)、中(47.5%)、高(17.2%)⇒ H29目標値 小(75%)、中(70%)、高(60%)

○フィルタリング設定に関する取組の促進

<フィルタリングの設定率>

H27実績 小(33.5%)、中(33.7%)、高(42.4%)⇒ H29目標値 小(85%)、中(80%)、高(70%)

1 児童生徒の主体的な活動の促進

- 市町村教委や学校と一層連携した、児童会・生徒会等を中心とした取組の推進
(夜間使用等に関するルールづくりの充実)
- 新たに高校生部会を加えた「OKAYAMAスマホサミット2016」の成果報告会による児童生徒の主体的な取組の全県への普及
- 中学生がグループで目標を設定して取り組む「スマホチャレンジ100」の実施

2 教職員による児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

- 情報モラル推進リーダー研修による中核教員の養成(H27～H29の3年間)
- 校内研修プレゼン用資料の提供による教職員の指導力の向上

3 家庭や地域への啓発活動の充実(家庭でのルールづくりの更なる推進)

- 保護者啓発の中核となる「子ども安全安心ネットサポーター」の継続的な養成
- 前年度養成したネットサポーターを活用し、保護者会等で、スマホ利用のルールづくりに関するワークショップを実施
- 「親育ち応援学習プログラム」を活用し、就学前から保護者に対し、スマホやメディア等との正しい接し方について、保護者同士が学び合う学習会を推進
- スマホ等の正しい利用に関する学習リーフレット等を活用した研修の促進

4 関係機関等と連携した取組

- 岡山県精神科医療センターと連携したネット依存の対策に関する研究
- スマホ・ネット問題解決タスクフォースによるフィルタリング奨励宣言店の登録制度の普及、奨励宣言店等との意見交換を通じたフィルタリングの効果的な設定促進
- ネットパトロール事業による不適切な書き込み等の早期発見と対応